

デザイン学部

デザイン学科准教授 片岡 祐司

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
自動車技術会春期フォーラム 『ミニマムモビリティでワクワク移動』	2010. 5. 19	パシフィコ横浜 アネックスホール F205+F206	2030年を想定し、地球への負担がミニマムで、且つ、ワクワク楽しい移動は何であるかの提案をロボットデザイナーの松井氏、2輪メーカー4社デザイナーTOPが意見を交わすことで2030年のミニマムモビリティのあるべき姿やそこに至るまでのロードマップを探った。これを企画/開催委員として主催した。
論文 2009年東京モーターショーに見るデザイントレンド	2010. 6	自動車技術 vol64 2010. 6	2009現在の年東京モーターショーにおけるカーデザインのトレンドを確認し、今後の10年で考えられる社会的環境の変化とカーデザインとの関係を解説。また、今後カーデザインがどのように変わらなければならないかを提言した。
教員展	2010. 6. 11 ～6. 16	名古屋芸術大学 B ギャラリー	スズキ・カプチャーノ デザイン開発に関する展示
名古屋芸術大学特別公開講座「モーターサイクル&カーデザインセミナー2010」	2010. 9. 13 ～9. 15	名古屋芸術大学西キャンパスX棟313, 314教室	大学創立40周年記念事業の一環として、名古屋芸術大学デザイン学部主催特別公開講座「モーターサイクル&カーデザインセミナー2010」を開催した。
2010 JIDA 全国会議中エリアテーマ「明日のカタチ・アタシのかたち」	2010. 11. 6	主催：JIDA 中部ブロック会場：愛知芸術大学	◆会議はデザインのプロフェッショナル達により、これからのデザインの定義・使命・職能を討議、未来への展望を探り明日のデザイナーのあるべき「カタチ」を追求。また、JIDA 次世代委員会学生プレゼンテーションも同時開催、これに本学 ID コース3年生のポートフォリオ展示を行った。これらの企画開催を幹事として運営した。
卒業制作展訪問	2011. 1～. 3	会場：各大学卒業制作展会場 主催：日本インダストリアルデザイナー協会 中部ブロック	JIDA 企画委員としてイベントを主催。デザイン系大学、専門学校の卒業制作展を訪問、学生のプレゼンテーションを受け作品を評価。JIDA 賞を授与した。
キッズデザイン展	2011. 2. 23 ～2. 28	主催：クリエイティブ・デザインシテイなごや推進事業実行委員会 会場：ナディアパーク	◆2010年度のデザイン啓発事業企画として、キッズデザインに関する企画を開催。これに実行委員として運営に参加、同時本学インダストリアルデザインコース学生の作品を展示。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等	g その他教育活動上特筆すべき事項
---------------------------	-------------------

授業科目 製品企画論 A		<p>プロダクトデザインにおける様々な仕事の種類を細かく説明し、今後の職種選択の参考となるよう講義を進めた。</p> <p>講義形式は実際のメーカー内でのプレゼンテーションを模した形式で行い、リアリティーを持たせた。</p> <p>また、カラーデザインについては自動車メーカーから現場のデザイナーを特別講師として依頼し、特別講義を開催した。</p>
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
デザイナーとしての経験を生かし、デザインの現場で何がどのように行われているのか、可能な限り最新の情報を元にリアルな講義を工夫した。	デザインの現場にできるだけ近似した内容のパワーポイントを毎回作成しこれを活用した講義。	
授業科目 デザイン実技Ⅲ-2 (PS) ID		<p>デザインイベントや講演会、展示会などできるだけ多くに学外授業として参加した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウェルフェアの見学 (ユニバーサルデザイン関連) 2. JIDA 次世代委員会学生プレゼンテーション、交流会参加 3. アクシスギャラリ 『金の卵』 展参加
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
デザイン表現力の向上を第1目標とし、スケッチ、レンダリング、モデリングを、実際に手を動かしながら指導を行った。また特別公開講座によるスケッチセミナーにも授業として参加した。	プロデザイナーのスケッチやイメージボードなどできるだけ現場での仕事が体感できるような資料、情報を提供した。	
授業科目 デザイン演習Ⅱ-1 (PS-ID)		<p>授業の後半を、名古屋芸術大学とホンダ技術研究所により開催されたスケッチセミナーに参加。これにおいて、プロデザイナーから集中講義形式で直接デザインやスケッチの指導を受け、デザインの現場でどのようなデザインやスケッチが必要か実体験した。</p>
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
プロダクトデザインの中でも特にカーデザインを中心にその表現技法を学ぶ演習。これを学ぶことにより、さまざまな工業製品におけるスケッチ表現の基礎とする。また将来カーデザインに関する仕事を考える学生には、その基本となる表現力の習得を目標とする。	スケッチ手順のPPT、プロデザイナーによるスケッチサンプルを配布。	
授業科目 デザイン実技Ⅳ (PS2) ID		<p>卒業制作につながるテーマの発見や、将来、現場での仕事を前提とした課題の進め方を行った。</p> <p>デザインイベントや講演会、展示会などできるだけ多くに学外授業として参加。</p>
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
自分の力で問題や課題を発見し商品につなげるプロセスの習得を目的とし、各自が自分なりの工夫を考える課題とした。	ユニバーサルデザインに関する資料、情報の提供。	
授業科目 立体造形		<p>手を動かし、立体に触れることにより三次元の楽しさやデザインの広がり、可能性を感じ取ることができるよう指導、特に感動を味わうことができるよう心がけた。</p> <p>また、他の学生の作品を全員で評価し、デザインやアイデアには限りなく可能性があることを感じさせた。</p>
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
1年生はこれまで立体に触れたことの無い学生がほとんどで、回転体を製作することで、立体表現に親しみ、興味を持つことを目標とした。	行程を示すパワーポイントによる講義を実施。	

授業科目 インターンシップ演習		実際の現場での体験を行うことにより、初歩的な職業的スキルを身につけるとともに、社会人として働くことの意義を感じ取り、将来の職業選択や職業意識の育成に役立てることができた。また、各自の職業に対しての適正も確認することができるよう配慮した。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
企業での職業体験を通し、実社会でのデザイナーとして働くために心掛けておかなければならないことを理解すると同時に、これに関する事前授業を行い、マナーやルールを指導した。	学生支援課と共同でインターシップ企業に関する資料、マナーやルールについてのテキストを作成。	
授業科目 卒業研究		最終学年の最後の作品として、調査から課題の発見、その研究に基づき、製品を開発するまで、プロとして生きていくためのデザインプロセスを体験させた。JIDA 次世代委員会学生卒展訪問参加。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
より広い範囲にその課題を求め、実体験を積み重ねる中で課題を発見するように指導。	あえて、資料を用意せず、各自が自分自身の手で素材を発見することを求めた。	
授業科目 意匠計画演習		大学院レベルの高い成果を出すことを目標とし、各自の自己研鑽を促した。またグループによるチームワークの進め方や、リーダーシップの取り方なども重要な研究テーマとした。
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
デザイン開発を、出来るだけ現場の開発状況に近いプロセスを想定し、その手法を解説しながら製品の開発を実体験、デザイナーの能力として特に重要となる発想方法を研究、さらにこれをベースとして自分なりの開発手法を工夫し、実践した。	企業と連携したプログラムを用意、研究所での共同研究テーマを共有し、教材とした。	

3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
自動車技術会 デザイン部門委員会	2002年デザイン研究会として発足、2004年より部門委員会に昇格発足時はスズキ代表委員・幹事として、2005年より中立の委員として現在まで活動。	<p>◆活動の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくりの源流にたずさわるカーデザイナーが広く自信と存在感を示すための環境作り。 未来を担う若年層に向けてカーデザインの意味や重要性を伝えカーデザイナーへの動機付け。 日本の自動車産業におけるカーデザインの重要性をアピールし、カーデザイナーの社会的地位の向上。 カーデザイナーだからこそ実現可能なユーザーと技術者のパイプ役。 <p>◆活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> シンポジウム、フォーラムの開催 デザイン講習会開催 技術者との交流会 基準統一に関する働きかけ

名古屋デザイン DO	2009. 6 ~ 2010. 11	<p>◆クリエイティブシティーなごや推進事業実行委員会主催により隔年で開催される国際デザインコンペ</p> <p>2010 年度第 7 回の企画委員として、2009 年度より、そのテーマ、審査委員の決定、運営方法などの検討のため委員会に参加。</p>
1 日芸大生	2010. 8. 1	<p>◆小学生のためにデザインの実体験をとおして、その楽しさを理解してもらうイベント。</p> <p>ID コースでは、真空成型の実体験とこれにより出来上がるトレイを使ったゼリー作りを行い、これに講師として参加した。</p>
日本インダストリアルデザイナー協会 (JIDA)	2006. 4 入会 2007 ~ 2011 年の間幹事	<p>◆中部ブロック役員として総会、セミナーなどの開催、次世代委員会委員として若手や学生の育成を目的としたイベントの開催</p>
名古屋芸術大学デザイン学部デザイン研究所における共同研究『チームエコラボ 新製品開発プロジェクト』	2010. 10 ~ 2011. 1 末	<p>東海地区の地元中小企業による環境製品研究組織「チームエコラボ」と『チームエコラボ 新製品開発プロジェクト』についての共同研究を行い、環境を考慮した次世代新製品の企画開発を行った。</p>